

インフラ整備70年 講演会(第71回)

～戦後の代表的な100プロジェクト～

北陸自動車道の建設

フォッサマグナを貫き、古代からの交通の難所に
高速交通時代の幕を開ける

<講演プログラム>

1. 北陸自動車道の路線計画の概要
2. 北陸自動車道の路線の特徴
3. 北陸自動車道の橋梁
4. 北陸自動車道 親不知海岸高架橋の施工
5. 北陸自動車道のトンネル
6. 北陸自動車道 親不知トンネル・風波トンネルの施工
7. 北陸自動車道における地すべり対策・雪氷
8. 北陸自動車道の整備効果と開通後の取り組み

<講演者>

栗原 則夫 元日本道路公団 新潟建設局 糸魚川工事事務所 所長
長尾 哲 元日本道路公団 新潟建設局 工務課長
青山 實伸 元日本道路公団 新潟建設局 魚津工事事務所 工事長
三浦 克 元日本道路公団 新潟建設局 糸魚川工事事務所 工事長
大窪 克己 元日本道路公団 新潟建設局 技術第一課 課長代理
長谷川英介 中日本高速道路(株) 執行役員 金沢支社長
亀山 碩寛 元(株)白石 外波西高架橋(下部工) 工事 現場代理人
福田 博之 鹿島建設(株) 元親不知トンネル事務所 職員
コーディネーター： 鈴木辰夫(鉄建建設(株) 上席顧問)

2026年 10月2日 (金)

講演会：15:00～17:00 (入室開始予定：14:50～)

場所：ZOOMウェビナーによるWEB配信 定員：1,000名

写真提供：

(上) 富山県/PIXTA、(中) 石川県/PIXTA
(下) 新潟県/ネクスコエンジニアリング新潟

滋賀県米原市～新潟県新潟市間 約476kmの北陸自動車道は、フォッサマグナや北アルプス北端が海へと連なる厳しい地形・地質を貫き、広範な軟弱地盤、地滑り地帯を通過して、北陸地方に高速交通時代の幕を開けた。特に、最後の難所であった朝日～上越間では、狭隘な山岳地帯に多くのトンネルと橋梁を、また冬に大荒れとなる海上に橋梁を建設するなど技術的な難しさに加え、工程の短縮も求められた。また、トンネルにはNATMを高速道路建設で初めて本格導入したほか、軟弱地盤での摩擦杭の試行、トンネル残土を海岸埋め立てに活用して町おこしに繋げる地元協議など、多くの新たな取り組みに挑戦した。これらの様々な建設の記録を、整備効果と開通後の取り組みと合わせて紹介する。

(本講演会は、建設コンサルタント協会CPDプログラムとして認定されております)

主催：(一社) 建設コンサルタント協会

後援：(公社) 土木学会

インフラ整備70年講演会(第71回)

北陸自動車道の建設

フォッサマグナを貫き、古代からの交通の難所に高速交通時代の幕を開ける

《講演者略歴》

栗原 則夫	元日本道路公団 新潟建設局 糸魚川工事事務所長
長尾 哲	元日本道路公団 新潟建設局 工務課長
青山 實伸	元日本道路公団 新潟建設局 魚津工事事務所 工事長
三浦 克	元日本道路公団 新潟建設局 糸魚川工事事務所 工事長
大窪 克己	元日本道路公団 新潟建設局 技術第一課 課長代理
長谷川英介	中日本高速道路(株)執行役員 金沢支社長
亀山 碩寛	元(株)白石 外波西高架橋(下部工)工事 現場代理人
福田 博之	鹿島建設(株) 元親不知トンネル事務所 職員
コーディネーター ; 鈴木辰夫(鉄建建設(株) 上席顧問)	

写真提供 (上) 北陸自動車道の行く手を阻む立山連峰; 富山県/PIXTA

(中) 梯川橋; 石川県/PIXTA

(下) 親不知海岸高架橋; 新潟県/ネクスコエンジニアリング新潟

講演会 申し込み方法

- 講演会 (WEB無料) はどなたでも申し込みできます。
- お申し込みは協会HP (<https://www.jcca.or.jp/infra70new/reserve/>) よりお願いします。

【注意事項】

- お申し込みは先着順となります。定員に達した時点で締め切りとなります。
- 申込後に完了通知メールが送付されます。送付されない場合はメールアドレスに不備がありますので、再度、申込手続きをお願いします。
- 申込時の個人情報はインフラ整備70年講演会に関する事項のみに使用し、第三者には提供しません。
- 許可なく講演内容の録画・録音による転用等をご遠慮頂きますようお願いいたします。

<WEB配信について>

- 申込完了者には、ZOOM入室URL(事前登録用)を講演当日の前日までに送付させていただきます。
- 受講証明書が必要な場合は必ず個人単位で申込みください(複数名での視聴は申込者のみが証明書の発行対象となります。申込みデータとのCHKを行います)

問合せ先 E-mail: infra70@jcca.or.jp

「インフラ整備70年」講演の目的

20世紀後半から今日までの70年間は、我国のインフラ整備事業が最も広汎かつ大規模に進められた時期であり、現在の我国社会が享受しているインフラサービスの過半がその時期に新たに整備されたり大改良を加えられたりした事業の成果そのものであるとって過言ではありません。それらの事業の記録はさまざまな形で残されていますが、それに関わった人々の声を聴く機会は少なくなっています。

今般、(一社)建設コンサルタンツ協会では、戦後のインフラ整備事業の代表的な事例に直接、間接にかかわった方々からその経験や見聞を講演していただき、それを記録することで、インフラ整備の意義や携わった人々の偉業を、コンサルタント技術者にはもちろん、広く一般社会に伝えたいと思っています。

そのため、(一社)建設コンサルタンツ協会本部に「戦後インフラ整備事業研究会」を設置し、各種の事業の中から100プロジェクトを選び、インフラストラクチャー研究会の協力を得て、それらについての講演会を開催するものとなりました。

*建設コンサルタンツ協会では、これまでの講演概要資料及び今後の予定を協会HPにて公開しています。また、各講演会の概要資料は、協会広報誌“Consultant”別冊として発行予定です。

<次回講演会予定> 第72回講演会 2026年10月29日(木) 会場; 建設コンサルタンツ協会7階会議室

テーマ: 都市計画道路臨港線整備と小樽運河の保存

～10年を超える住民運動と行政の対応がもたらしたもの～

講演者: 石塚雅明: (株)石塚計画デザイン事務所 顧問 / 元「小樽運河を守る会」企画部長

西村幸夫: 東京大学名誉教授・国学院大学名誉教授

橋本達則: 日建コンサルタント(株) / 元北海道庁

廣瀬隆正: 東日本旅客鉄道(株) / 元国土交通

*WEB配信のみにて行う予定です